



大竹市

人口：「31,014人」
(平成14年11月末現在、住民基本台帳による)
面積：「77.95km²」
市の花：「サツキ」
市の木：「クロガネモチ」
キャッチフレーズ：
「優しさいっぱい・多彩都市 おおたけ」

広島県をはじめ広島・山口両県にまたがる広島湾域6市16町の自治体と商工会議所・商工会で組織する「広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会」では、海から見た都市づくりをめざす「海生都市圏構想」実現のため、共生・分担・交流・連携をキーワードに積極的な事業を展開しています。このコーナーでは、湾域各市・町の様々な情報を毎月ご紹介しています。

－優しさいっぱい・多彩都市 おおたけ－



海に広がる臨海工業地帯 大竹市

臨海工業地帯の大竹市

大竹市は、広島県の西端に位置し、古代には遠管郷とよばれ、当時の都と九州・大宰府を結ぶ古代山陽道の『安芸の国の終着駅』として、また交通の要所として栄えたところでした。
戦後、近隣の『ふるさと』を共有できる町村が合併し、昭和29年

9月に人口約3万4千人の市として、県内十一番目に誕生しました。その後、企業誘致を積極的に進めた結果、日本で最初の『臨海コンビナート』を有する瀬戸内海で有数の臨海工業地帯として発展してきました。化学工業製造品出荷額は、今でも県内第一位です。

現在は、海の埋め立てなどによる広い工場用地の確保や大願寺山の宅地造成をしています。さらに平成17年完成予定の港湾整備事業では、最大3万トン級の貨物船も入港可能となります。その他に高速道路のインターチェンジやJRRなどの交通利便性の高さ、充実した工業用水を確保できるダムが存在するなど、臨海工業地帯としてすばらしい立地条件にあります。

このように、大竹市は臨海工業地帯として、これからも発展する未来ある都市なのです。

魅力あるレジャースポット

また大竹市は、工業地帯とは別に、四季折々に変わる美しい自然や歴史的建築物、公共施設などのすばらしい観光資源に恵まれた側面も持っています。

○鋭く上がった三つの峰を持った標高702メートルの『三倉岳』(県立



四季折々のイベントで盛り上がるマロンの里

自然公園

○河床の岩壁が大小のおう穴を形づくって珍しい景観をみせている『蛇喰磐』(県天然記念物)

○まるで山水画を見ているような景観の『弥栄峽』(県名勝)

○錦龍の滝を中心とした森林公園の『憩いの森』

○灯台の歴史がわかる灯台資料館があり、海釣りも楽しめる『阿多田島』

○春には、千本の桜が咲き、天守閣跡からは、瀬戸内海の眺望のすばらしい『亀居公園』(城跡公園)

○コンクリートのダムで提体の体積が155万m³と中国地方第一位の弥栄ダム。

○その他にも都市と農村の交流拠点としての『マロンの里』や研修やレジャー、宿泊のできる『海の家あたた』や『自然の家やさか』などがあります。

■大竹市のイベント情報■

(平成15年)	
おおたけカキ水産まつり	1月26日(日)
おおたけ日曜日	毎月第4日曜日
手作りたこあげ大会	2月9日(日)
ひな流し	3月2日(日)

【問合せ先】
大竹市役所
TEL (0827) 59-2111
E-mail : otake-city@do.enjoy.ne.jp



未来に願いを込めて、ひな流し

海生都市圏構想に賛同して
大竹市は、自然と産業が調和した未来ある多彩都市なのです。また広島県内では、西の玄関口にあたる位置でもあります。それらの長所を生かして、大竹市は、他の地域とも力を合わせて、海生都市圏構想を実現させていきたいと思えます。